



梅（宮内梅まつり）

うたごよみ 文月

「短歌」

渡辺幸士選

春霞と詩歌に詠みしも今の世はPM2.5白濁の空
内山タミエ

麦秋を迎え収穫まだなれど梅雨に入りて今後を憂う
緒方 明美

ホーホケキヨの声に応援されながら日々の散歩の足どり軽し
赤星 文子

椀洗う水の冷たさ心地良しはや夏来ぬと素手に感じる
赤星 延子

しなやかに慎ましく咲く花しのぶ薄紫の優しく揺るる
塚原 暁益

母の日と米寿の誕生重なりて子らに連れられ祝いの席へ
本田富美子

孫たちへ文したためて自ずから涙こぼれて便箋濡らす
松本ぬい子

衣替え捨てたり思い返したり老いの整理は未練が募る
森田 房恵

久々に阿蘇の新緑眺めつつ深呼吸して初夏の香りす
上村やす美

灯りなく人影もなき玄関に白百合香り放ち迎ゆる
内田乃武子

荒れ畑の草生の中に背高く王者の如きアマリリス咲く
上村 かず

待ち侘し雨に潤う春野菜眩しきまでにみどり増したり
吉永由紀子

最終のバス終点に着きしとき客ほろ酔いのわれ一人なり
渡辺 幸士

「川柳」

渡辺幸士選

「踏む」

踏まれてもなお立ち上がる明日がある 林 雅之

遅しく伸びよ育てと麦を踏む 北 仁子

踏まれてもはびこり育つ麦若葉 松本ぬい子

人生は踏まれ踏まれて一人前 早 彦喜

雑草に学ぶ踏まれて伸びる根性を 伊豆野ヤエ

「なぜ」

なぜだろう日本の四季がずれている 古閑チヨミ

あの言葉何故か気になる何となく 緒方 瑞枝

習いごと巧くならない歳のせい 布田 愛子

絵日記の隅に小さくパパが居る 清川みどり

失敗の責めはしつぱが負わされる 渡辺 幸士

お問い合わせ先 町教育委員会公民館事務局
☎096・234・2447（内線321）